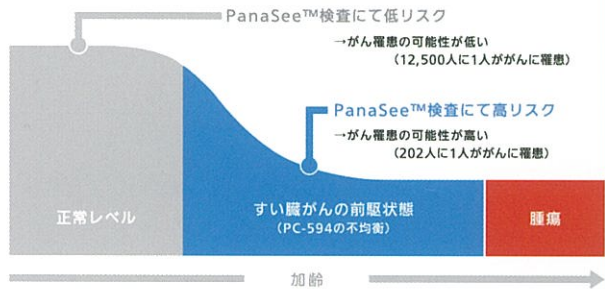


PanaSee™
パナシー

PanaSee™は早期からの すい臓がんのリスク判定が可能です

健康な状態から、すい臓がんになる過程で減少するとされる長鎖脂肪酸“PC-594”という物質測定しています。高リスクの場合は、低リスクに比べてすい臓がんが見つかる確率が60倍高くなります。



気になるチェック項目 こんな人は要注意です

- タバコを毎日吸う。もしくは吸っていた。
- 週に5日以上お酒を飲む。
- 高血糖の持病がある
- 肥満（肥満ぎみ）である。
- 血縁家族がすい臓がんになった。

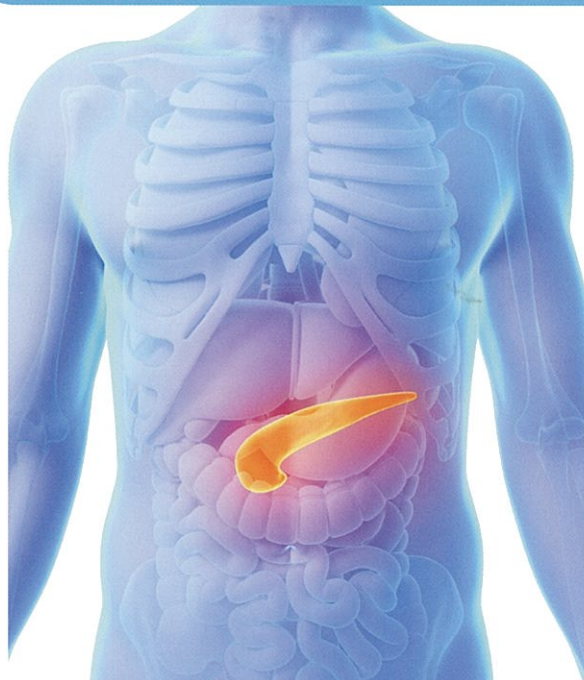
早期発見・早期治療のために

すい臓がんのリスク検査



PanaSee™
Know your risk.

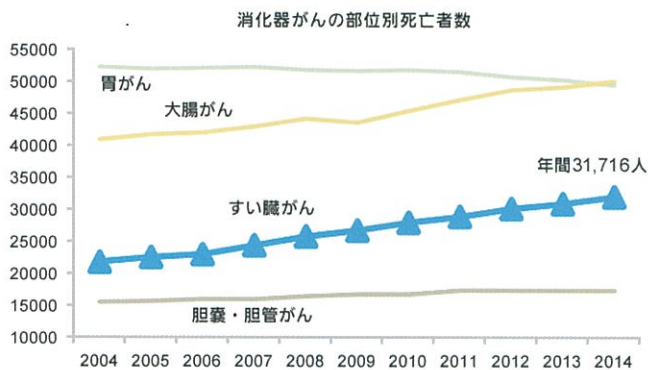
PanaSee™
(パナシー)



すい臓がんのリスクを調べる血液検査です。

「最悪のガン」すい臓がん

すい臓がんによる罹患者数・死亡者数は上昇傾向にあり、年間の死亡者数は年間3万人を超えると考えられています。また、予後が悪いケースも多いとされ「最悪のガン」として知られています。



出典：厚生労働省 人口動態統計によるがん死亡データ(2014)

すい臓がんの特徴

病状の進行が早い

すい臓は、その形状がタラコ程度の大きさと小さく、他の臓器で起こるがんよりも進行が速くなる傾向にあります。また、すい臓は活発に動く消化器官であり、細胞が元気なため、がん細胞化した時の進行速度も非常に早いと言われています。

自覚症状が出にくい

すい臓は肝臓と並んで病気の症状が出にくい「沈黙の臓器」と呼ばれており、がんが発生しても殆ど自覚症状がないといわれています。また自覚症状が出た時にはかなり進行していることもあり、手遅れになってしまう場合もごまかします。

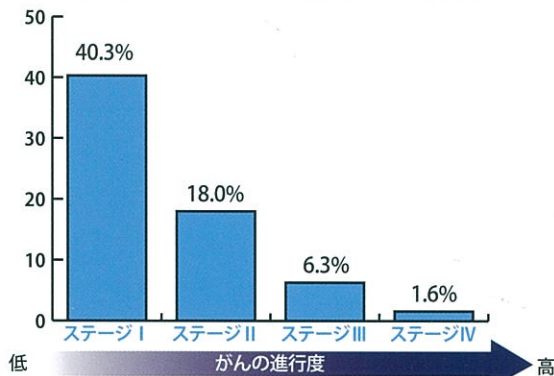
発見が困難

すい臓がんに対して、有効なスクリーニング検査は少なく発見が非常に困難であるといわれています。またすい臓の周りを血管やリンパ管、神経が取り囲んでいることもあり、非常に遠隔転移しやすいがんであり、治療も困難であるといわれています。

早期発見・早期治療が重要

すい臓がんは早期発見が難しい上に、進行が早く重症化してしまうケースが多いと考えられています。すい臓がんの5年生存率をステージ別にみると、ステージ4では10%を切り、非常に低くなっています。しかし、初期段階での発見・対処が出来れば、生存率は40%以上大幅にあがり、早期発見・早期治療が非常に重要です。

すい臓がんのステージ別5年相対生存率



※公益財団法人 がん研究振興財団「がんの統計'15」全国がん(成人病)センター協議会加盟施設における5年生存率(2004~2007年診断例)より引用

血液検査ですい臓がんのリスクを知る

血液検査で簡単に調べることが可能です。

すい臓がんのリスク検査 PanaSee™ 検査の流れ

- 1 受診予約の実施
検査の予約・申し込みをします。
- 2 採血
採血による検査を行います。
- 3 検査データ解析
専門の検査機関で、解析を行いリスクの判定を行います。
- 4 結果報告書の提供
約4週間後、受診した医療機関より、結果報告書が提供されます。必要に応じて精密検査の実施などをご確認ください。

受診をご希望の方は、
スタッフにお申し付けください。